

## 山、ちょっとした工夫たち

OWCC 中川和道 20220818

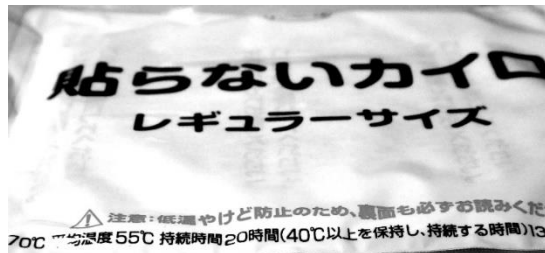
今年 2022 の夏はコロナの直撃で、10 を超える山小屋が、軒並み、一時休業に追い込まれている[1]。この事態の教訓は今後にゆずり、今回は、登山行動におけるちょっとした工夫たちに目を向ける。たくさんあってどれを選ぶか迷う。中には、どこかで発表されていたり、すでに行きわたっているものもあろう。ご容赦下さい。

### 1. ホッカイロ

高齢者クライマー中川は、雪山はもちろん夏のアルプスでもホッカイロが欠かせない。一度に 3 個も使う。3 泊 4 泊となるとその重量も体積も大きな負担だ。そこで工夫は、

(1) 1 個を 4 泊使う：酸素遮断で長期使用を。

高度 3000m では気圧 700hPa なので酸素濃度も約 70%。地上 1013hPa での発熱反応時間 20 時間(右図)は  $20 \times \frac{1013}{700} = 29$  時間ももつはずだ。実際、中川は 4 泊使っている。



(2) それには、1 泊 8 時間使ったら、朝にはビニール袋に入れて化学反応を停める。ジップロックではダメだった。袋の口を 2 重に縛って完璧を期している。

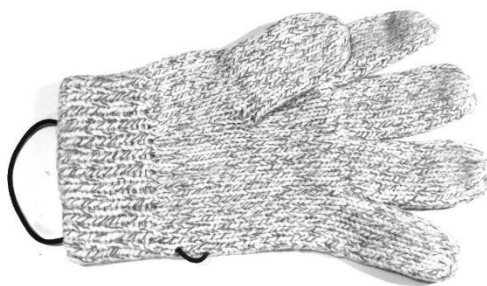
(3) 図のとおり「貼らないカイロ」がいい。貼るカイロは接着剤の半面は呼吸できないので寝袋が湿っていたら窒息して発熱しなかったことがある。夏に低体温症の仲間を使うときも同じだ。この場合は、まず、乾いた仲間の体で十分に発熱させ乾燥した手ぬぐいやハンカチで包んでからやられている仲間に処方する。雪崩講習会でも学ぶが埋没者を掘り出した時と同じだ。

### 2. 手袋のゴム

吹雪で手袋を飛ばされてはまずい。手袋の両手を 1 本のひもで結ぶやり方だとジャマになって仕方がない。また、夏のクライミング手袋をジャマにならないやり方で持ちたい。問題解決を目指して中川は、小指の下側に外からゴムを通して中で結びんでいる(図)。

内側からの輪っかを手首に通してから指を入れれば、落としたり風で飛ばされたりしない。

小指の下の短い輪っかを 100 均カラビナでまとめてぶら下げればぶらぶらしない。



### もっといいのがあるそう。みなさん、工夫を教えてくださいませんか？

[1] 「コロナ 山小屋」「コロナ 登山」で検索したらあまりにも多数ヒットした。気持ち落ち込んだ。

北國新聞 8/16 立山登山にコロナ直撃 室堂の宿泊施設、臨時休業続出、従業員ら感染、予定日に「難民」も

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f2e2f9130e775c99444c66d5fc8a4679f6977990>

信濃毎日 Web : 7/26 第 7 波山小屋 4 カ所自粛に 7/28 白馬山荘自粛